

川場村

群馬山岳連盟 岩登り講習会

2022年10月01日

参加者：桐林 (記)



グレード 5.9 ? 25 m

前所属山の会OBから、「講習あるからそれ参加して、飲み行くんべえ」と言われ、「はい行きます！」と即答。Gmailの送信予約機能で即座に申込み。来週だなあと、思いながら様子を伺うと、行けなくなったことを人伝に…。

前日入りをし、朝川場村に集合。思ったよりも、人数が多い。15名程度受講生がいて、運営側も10人ほど参加していた。ロープワークから学ぶ初級者から、リード&セカンドの練習をする中級者に分かれ、講習が行われた。講習場所は、沢伝いに登り山頂直下の花崗岩系の岩場だった。過去あかぎ国体で使用された場所とのことだった。

まずはデモンストレーションということで、沼田山岳会の方のリードを見せていただいた。ここは国体競技で使用したルート。右下のロボット懸垂下降器をお

持ちの佐藤理事長が40年前デモンストレーションしたとのこと。セカンドの方も登り、次は受講生。参加者最年少の私が呼ばれ、登ることに。グレードどれぐらいですかと聞けば、5.9だなと言われ、びびる。リード初見だと5.8の経験しかないため、保険をかけた。上部の斜めバンドをトラバースするのが嫌らしいがなんとか完登。支点構築を習い懸垂で降りた。次はリードもどきで登り緊張。結局2回のサークリングで終了となった。

午後は支点構築の復習で、沼田の清野氏のテストを受けた。2つの支点を結ぶ荷重点をマスターポイントと呼ぶことを知り、今までモヤモヤした説明がきれいになった。単語って素晴らしい。技術のやり方にはさまざまあり、その時代の最新を知ることが重要だと感じた。柔軟に合理的に考えたいと思う。



ロボット 懸垂下降器